２年　国語科学習指導案

授業者　大阪市立海老江西小学校　植田　愛
大阪市立南住吉小学校　　戸谷　未央

１　日　　時　　令和８年　１１月１０日（火）第５校時（１４：００～１４：４５）

２　学年・組　　第２学年い組（在籍１８名：海老江西）、第２学年３組（在籍３４名：南住吉）

３　単 元 名　　「ビーバーの大工事すごいぞブック」をつくろう
（中川　志郎「ビーバーの大工事」東京書籍　第２学年下）

４　単元目標

(1)　ビーバーの大工事における作業工程や、それに関わるビーバーの体の構造や機能、ダム作りの様子について理解することができる。　〔知識及び技能〕(2)ア

(2)　ビーバーの体の構造や機能、大工事の様子を表す重要な語や文を考えて選び出し、ビーバーの生態がダム作りや巣作りにどのように関係するかについて考えをもつことができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ウ

(3)　ビーバーの生態について書かれた文章や資料などを読んで、感じたことや分かったことを伝え合うことができる。　〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)カ

(4)　言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。　「学びに向かう力、人間性等」

５　単元間の関連と系統

前単元（第１学年１１月）	本単元（第２学年９月）	次単元（第３学年１１月）
学習材 「いろいろなふね」 時間的な順序事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉え、文章を読んで感じたことや分かったことを伝え合う。	学習材 「ビーバーの大工事」 時間的な順序や事柄の順序に着目しながら内容の大体を捉え、文章の中の重要な語や文を選び出し、感じたことや分かったことを伝え合う。	学習材 「せっちゃくざいの今と昔」 考えと理由や事例などの情報と情報との関係について捉え、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する。

６　単元で取り上げる言語活動

「『ビーバーの大工事すごいぞブック』をつくろう」という言語活動を設定する。これは、ビーバーがなぜ、「大工事」を行うのかを学習材から読み、「大工事」の作業に関わるビーバーの体の構造や機能、ダム作りの様子で驚いたことや感動したことを「大工事のすごいぞポイント」として選び出し、それを書いて紹介するというものである。この言語活動を行うためには、ビーバーが行う「大工事」の作業工程に着目しながら内容の大体を読み、ビーバーの体の構造や機能、ダム作りの様子を表す重要な語や文を本文中から選び出し、その意味を正確に捉えることが必要となる。したがって、本単元の目標にふさわしい言語活動であると考えた。
（関連：〔思考力・判断力・表現力等〕C(２)ウ）

７　評価規準

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
①　ビーバーの大工事における作業工程や、それに関わるビーバーの体の構造や機能、ダム作りの様子について理解することができる。（(2)ア）	①　「読むこと」においてビーバーの体の構造や機能、大工事の様子を表す重要な語や文を考えて選び出し、ビーバーの生態がダム作りや巣作りにどのように関係するかについて考えをもっている。（C(1)ウ） ②　「読むこと」においてビーバーの生態について書かれた文章や資料などを読んで、感じたことや分かったことを伝え合っている。（C(1)カ）	①　進んで、ビーバーの体の構造や機能、大工事の様子を表す重要な語や文を考えて選び出し、ビーバーの生態がダム作りや巣作りにどのように関係するかを考え、学習の見通しをもって、「ビーバーの大工事すごいぞポイント」を紹介しようとしている。

８　指導にあたって

【学習者観】

本単元における付けたい力を育むために、学習者は次のような学習を積み重ねてきている。

前単元「たんぽぽ」において、たんぽぽの特徴や構造について説明されている文とそれに関わる挿絵を照らし合わせながら学習材を読み進めていくことで、たんぽぽの「は」「ね」「花」「み」「くき」「わた毛」という事柄の順序で説明されていることに気付くことができた。さらに、「はるのはれた日」「夕方」「夜の間」「つぎの日」「晴れた日」という時間の順序を表す言葉に着目することで、たんぽぽの一日の様子や、たんぽぽが生長し綿毛となり飛んでいき芽を出すまでの順序を捉えることができた。時間的な順序や事柄の順序を考えながら読むことで、たんぽぽの生態について理解することができた。このような学習により、２年生のこの時期の学習者は、時間的な順序や事柄の順序に沿って説明的文章を読むことで、書かれている内容の大体を捉えることを学習してきている。これらの学びは、本単元で育みたい「ビーバーが行う『大工事』の作業工程に着目しながら内容の大体を読み取る」ことへと接続されるものである。

【単元観】

本単元では、学習者が主体的に学びを進め、身に付けた力を自覚できるようにするために、ビーバーの生態への驚きや感動を引き出す学習活動を展開する単元構成とする。単元構成は、ビーバーがなぜ、「大工事」を行うのかを学習材から読み、ビーバーの「体の構造や機能」、「ダム作りの工程」、「ダムや巣の構造」、「ダムを作る目的」に関わる重要な語や文を考えて選び出す。選び出した語や文の意味、それらが「大工事」とどのように関係するのかについての考えを交流し、ビーバーの大工事への驚きや感動を「ビーバーすごいぞポイント」として集め、「ビーバーの大工事すごいぞブック」にまとめるという言語活動を設定し単元を構成する。

本学習材「ビーバーの大工事」は、ビーバーの「大工事」であるダム作りと巣作りの作業工程を、体の構造や機能と結び付けながら説明し、最後に「大工事」の目的について述べた文章である。ビーバーは、学習者にとって日常で触れ合うことのない動物であり、その生態について詳しくは知らないことが多いと予想される。ビーバーについてあまり知らないことをクラス全体で共有したうえで、題名の「大工事」に着目し、学習者は「ビーバーが工事ではなく、大工事をするとは、どういうことだろうか。」と疑問を基に、興味や関心を高めることができるようにする。

学習材の特長は、筆者は「ビーバーの大工事」の工程について「木を切り倒す」「川へ運ぶ」「ダムを作る」「巣を作る」の４つに分け、時間的な順序やビーバーの体の構造（歯、後ろあし、尾）などの事柄を写真や絵と結び付けて説明しているため、想像しやすくなっている。特に歯と尾については、「歯は、まるで、大工さんのつかうのみのよう」、「尾は、オールのような形」、「上手にかじをとります」という比喩表現を用いて述べているので、語彙力や表現力を高めることができる。

「ダムを作る」の説明では、切り倒した木を小さくして、泳いで運び、木のとがった方を川の底にさしこんで、流れないようにして、さした木の上に小えだをつみ上げていき、さらに上から石でおもしをして、泥で固めていくことを順序立てて述べている。それと共に、５分以上の潜水時間や夕方から夜中まで作業時間、家族総出で仕事をするという生態についても述べている。さらに、これまでに見つかった大きなダムの例を、具体的な数字を挙げて「高さ２メートル、長さ４００メートルもある」と紹介している。学習者は自分たちの身近にある学校や公園な自宅などと比較して読むことで、ビーバーの能力やダムの大きさについて驚きの念をもって実感することができる。

「巣を作る」の説明では「てきにおそわれないあんぜんなすを作るためなのです。」と「大工事の目的」と「筆者の考えのまとめ」について述べている。説明文に加え、これまでの写真ではなく、挿絵にすることで、巣の位置（湖の真ん中）、巣の入り口の位置（水の中）にあることが気付けるようになっている。写真では見ることが不可能な巣の断面や内部構造を挿絵で見せることにより、ビーバーのダムや巣の構造をより分かりやすく伝えようという筆者の意図があると考えられる。この挿絵と本文を結び付けることにより、ビーバーの巣の入り口は複数あるという、本文中にはない巣の構造も確かめることができるようになっている。

このように本学習材は「大事な言葉をさがしながら読む力」を付けるのに適している。

【指導観】

第Ⅰ次で題名にあるビーバーがどのような動物なのかを知るために、大きさや様子が分かる映像をあらかじめ見せることで、ビーバーの体長やダム作りの様子が想像できるようにする。次に、学習者が進んで考えたいと思えるように、ビーバーの大工事という題名の「大工事」に着目する。その「大工事」と「工事」を比較する問いをすることで、「体の小さなビーバーがどのような工事をするのか」「なぜ、大工事を行うのか」といった疑問を引き出す。学習材の一読後には、単元のまとめとして、自分が「博士」となり「ビーバーの大工事すごいぞブック」を作成し、学級でまとめた一冊の本にして図書室に置いて全学年の人に読んでもらうという言語活動を行うと伝える。このように、相手意識・目的意識をもつことで、学習者が楽しんで学びに向かうことができるようにする。

学習者が単元の見通しをもつことができるように、前単元「たんぽぽ」で作成した言語活動モデルを提示し、紹介カードやクイズカードにまとめることを伝える。完成した紹介カードやクイズを級友と交流し、感想を伝え合うことを単元の最後のゴールとして知らせる。単元のゴールを達成するために学習材を読んで見付けてきた「ビーバーすごいぞポイント」の中から、学習者自身が最も驚いたり、感動したりしたものを選び、学習者が選んだ「ビーバーすごいぞポイント」に対して自分が感じたことや考えたことを書きためていく。また、ビーバーの体の構造や機能をより詳しく知るために、学習材に関連する図書や資料を教室内に配架し、帯時間等を活用して読み進めていくようにする。

第Ⅱ次は、主にビーバーが「なぜ、大工事を行うのか」という疑問を解決するために、ビーバーの体の構造や機能、ダム作りの様子で重要な語や文を選び出していき、大工事の目的と、それに関係するビーバーの生態について驚いたことや感動したこととして、「ビーバーすごいぞポイント」を見付ける活動を設定する。「ビーバーすごいぞポイント」は「敵に襲われない安全な巣を作るビーバーに驚いたことや感動したこと」として学習者と共有する。第Ⅱ次で「なぜ、大工事を行うのか」を追求しながら、重要な語や文に着目して読み進め、毎時間の学びを振り返ることで、自らの学びを自覚できように学習を展開する。学習者が重要な語や文に着目し、「ビーバーすごいぞポイント」を見付けることができるように、次の４つの手立てを講じる。

１つ目は動作化である。ビーバーになりきって動作をしてみることを通して、ダムを作るビーバーの生態についての驚きや感動を得ることで、ビーバーの体の構造や機能、ダム作りの様子を正確に理解できるようにする。２つ目は、言葉と言葉の比較である。学習材で述べられている言葉とちがう言葉を比べ、なぜその言葉で述べられているのかを考えることで、文脈の中でその言葉のもつ意味を理解できるようにする。３つ目は、自分の経験と比べて考えることである。例えば、「大きいトラックが近くを通った時に、地面が揺れた音がすることはない？」と問いかけをすることで、「地ひびき」を自分の経験と比べて理解できるようにする。４つ目は、知識の形成である。本学習材には、ポプラの木や柳の木、ダム、のみ、舵など、詳しく知らないことが述べられている。視覚及び映像資料の活用、実物の掲示をすることで、言葉を正確に理解できるようにする。この４つの手立てを行うことで、言葉の理解の曖昧さを減らし、正確に理解できるようにする。

学習者が交流の際、どの「すごいぞポイント」に着目して考えを形成したのかを視覚的に捉えることができるように、黒板に示した「すごいぞポイント」の各観点に、学習者がネームプレートを貼り付ける。どの観点に着目しているのかを学習者同士で示し合うことで、自分と級友の考えを交流する。また、自身が着目した「すごいぞポイント」について考えを形成できたら、ネームプレートの位置を変えることで、それぞれの学習状況の進捗を捉えることができるようにする。指導者と学習者が学習状況を視覚的に捉えることができるようにすることで、どの級友と、どのように交流すると学習課題を解決できるのかを考えながら交流できるようにする。

また、第４時、第５時で学ぶビーバーの体の構造や機能をより詳しく知るために、学習材に関連する図書や資料を読み、学習材で得た「ビーバーすごいぞポイント」を深める活動を設定する。関連図書や資料で見付けた「ビーバーすごいぞポイント」を「どんどん研究ノート」に書き留める活動を行うことで、学習者が学習材と関連図書から得た知識を結び付けて、ビーバーがなぜ、ここまで大工事をするのかという考えを広げることに役立てるようにする。

第Ⅲ次で「ビーバーの大工事すごいぞブック」を作成する。学習者は学習で得た「ビーバーすごいぞポイン

ト」の中から紹介したいことを選び、「紹介カード」と「クイズ」のどちらかで作成を進める。作成の際は、画用紙を活用し、手書きで行うか、学習者用端末を活用して作成を行うかを選択できるようにする。学習者用端末の活用では、SKYMENU「発表ノート」で作成を進める。このように学習者が言語活動の表現方法、作成する手段を自己選択できるようにすることで、学習方法における「学びの調整」を促し、個別最適な学びができるようにする。作成する際には、第Ⅰ次で提示した言語活動モデルを再提示する。そして、どのような内容が書いてあると自身が選んだ「ビーバーすごいぞポイント」が伝わるのかを、指導者と学習者が評価の基準を共有するようにする。作成したカードは、学習者同士で交流し、級友の考えに対して「よいと思ったこと」「おもしろいと思ったこと」など感想を伝え合う。学習者一人一人が選ぶ「ビーバーすごいぞポイント」のちがいに着目することで、互いの考えを認め合うよさに気付くことができるようにする。

このように本単元で動物の生態に関係する重要な語や文に着目して読み、感じたことや考えたことを伝え合う経験は、次単元「『どうぶつカード』を作ろう」でビーバー以外の生物に対象が拡張され、読むことの楽しさやよさに気付く資質・能力につなげることができると考える。

９　指導と評価の計画（全１１時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
一	1	○教材を一読し、単元の学習の見通しをもつ。	・題名を読み、「なぜ、大工事なのか」という問いにすることで、大工事のひみつを見つけていく学習への意欲を想起できるようにする。	
	2 3	○内容の大体を捉える。	・本文と挿絵を関連付けることで、ビーバーの行動（切り倒す、運ぶ、ダムを作る、巣を作る）が作業の順序で表現されていることを捉えられるようにする。	［知識・技能①］ ワークシート・ノート・発言 ビーバーの大工事における工程について理解しているかの確認。
二	4	○ビーバーが木を切り倒していく順序や様子を読み取り、「ビーバーすごいぞポイント」を見付ける。	・木を切り倒していく様子とビーバーの体の特徴を関連付けて読むことで、木を切り倒していく「ビーバーすごいぞポイント」を見付けていくようにする。	［思考・判断・表現①］ 観察・ノート・発言 ・叙述から、大工事に関係する重要な語や文を考えて選び出し、ビーバーの生態について考えをもっているかの確認
	5	○ビーバーが切り倒した木を川に運んでいく順序や様子を読み取り、「ビーバーすごいぞポイント」を見付ける。	・木を陸や水の中で運ぶビーバーの様子と体の特徴を関連付けて読むことで、木を陸や水の中で運ぶ「ビーバーすごいぞポイント」を見付けていくようにする。	
	6	○関連図書を読み、「ビーバーすごいぞポイント」を見付ける。	・本文と関連図書を読むことで、「歯」「水かき」「お」などビーバーの大工事ですごいと感じるポイントを「どんどん研究ノート」に集めていく。	
	7	○ビーバーがダムを作る順序や様子を読み取り、「ビーバ	・ダムを作る順序を捉えることで、「ビーバーすごいぞポイント」を見付け	

		ーすごいぞポイント」を見付ける。	ていくようにする。	
	8本時	○ビーバーが巣を作る様子と巣の仕組みを読み取り、「ビーバーすごいぞポイント」を見付ける。	・巣の作り方の順序を捉えることで、「ビーバーすごいぞポイント」を見付けていくようにする。	［思考・判断・表現②］ 観察・ノート ・ビーバーの生態について書かれた文章や資料などを読んで、感じたことや分かったことを伝え合っている。
三	9 10	○これまでに見付けてきた「ビーバーすごいぞポイント」を振り返り、紹介するカードをかく。	・「紹介カード」か「クイズ」から選び、かつ媒体を画用紙への手書きか学習者用端末によるデジタルから選べるようにすることで、言語活動の表現方法、作成手段を自己選択できるようにする。	［主体的に学習に取り組む態度①］ 観察・カード ・今までの学習を生かして、学習者自身が紹介したい「ビーバーすごいぞポイント」を紹介しようとしているかの確認。
	11	○作成したカードを基に交流し、単元の学習を振り返る。	・作成したカードを級友と交流することで、本単元でどのようなことが学べたのか、できるようになったのか、次の学習に生かしたいことを振り返るようにする。	［思考・判断・表現②］ 観察・ノート ・ビーバーの生態について書かれた文章や資料などを読んで、感じたことや分かったことを伝え合っている。

［知識・技能①］ワークシート

「おおむね満足できる」状況（B 評価）

・時間的な順序や事柄の順序でビーバーの大工事の工程を捉え、内容の大体をつかんでいる。

「努力を要する」状況（C 評価）への手立て

・学習材の挿絵や大工事の工程について短い言葉でまとめたカードを並び替えながら工程の順序を捉えることができるようにする。

［思考・判断・表現①］観察・ノート

「おおむね満足できる」状況（B 評価）

・「大工事」に関係するビーバーの体の構造や機能、ダムの作り方や巣の特徴を表す重要な言葉を叙述から選び出し、「ビーバーすごいぞポイント」として文章で表すことができている。

「努力を要する」状況（C 評価）への手立て

・「『すごいぞポイント』として選んだ叙述」と「なぜそう思うのか」に分けた話型を提示することで、文章で表現できるようにする。

［思考・判断・表現②］観察・ノート

「おおむね満足できる」状況（B 評価）

・ビーバーの生態について書かれた文章や資料を読んで「ビーバーすごいぞポイント」を見付け、見付けた事柄について感じたことや分かったことを伝え合うことができている。

「努力を要する」状況（C 評価）への手立て

・第二次で見付けた「ビーバーすごいぞポイント」や「どんどん研究ノート」を振り返ることで、今まで

見付けた「すごいぞポイント」の中から選ぶように声をかけ、文章で表現できるようにする。

［主体的に学習に取り組む態度①］観察・成果物

「おおむね満足できる」状況（B 評価）

・教科書や資料からビーバーの体の特徴や生態、ダムの作り方や巣の特徴を表す重要な言葉から選び出した「ビーバーすごいぞポイント」を、学習者が選んだ表現方法を用いて「ビーバーすごいぞポイント」を紹介しようとしている。

「努力を要する」状況（C 評価）への手立て

・今までのノートや教室掲示されている第Ⅱ次までに得た「ビーバーすごいぞポイント」を振り返る時間を設定することで、今まで見付けた「すごいぞポイント」を活用し考えることができるようにする。

10　本時の学習

（1）本時の目標（8／11）

巣作りとビーバーの体の特徴を関連付けて読むことで、敵に襲われない安全なビーバーの巣のすごさを理解することができる。

（2）本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価
1　前時までの学習を振り返り、本時の学習課題をつかむ。	・本時の課題につながるように前時までのノートを見返すようにしたり、学習者の振り返りを紹介したりする。	
ビーバーのすの「すごいぞポイント」をしょうかいしよう		
2　巣を作るビーバーの内容を音読し、巣を作るビーバーのすごいぞポイントを捉える。	・ビーバーのすの「すごいぞポイント」を考えながら音読するように声をかける。 ・叙述と挿絵を結び付けたり、その叙述を動作化したりすることでビーバーのすの「すごいぞポイント」を理解することができるように支援する。	
3　考えたすごいぞポイントの理由を書く。	・学習者が自分の体験や関連図書等の内容と結び付けて理由を書くことができるように、文型を示し、主語と述語の適切な関係に気付くことができるよう机間指導する。 ・黒板に示した「すごいぞポイント」の観点ごとにネームプレートを貼り付けることで、学習者同士がどの観点で考えを形成しているかが分かるようにする。 ・自分と同じ「すごいぞポイント」や、ちがう「すごいぞポイント」で交流することで自身の考えの見方・考え方を深めることができるようにする。	◆［思考・判断・表現②］観察 ・巣を作るビーバーのすごさについて、自分の体験と結び付けた理由を考えている。
4　すごいぞポイントを紹介し合う。	・「すごいぞポイント」を紹介し合うことを通して、ビーバーの生態についての驚きや感動を共有することができるように支援する。	

5　学習を振り返る。	・振り返りの観点を「何がわかったか」「新しく知ったこと」「友だちの考えでなるほどと思ったこと」「もっと知りたいこと」とし、ノートに書かせることで、学びの自覚化を促す。	

11　板書計画

